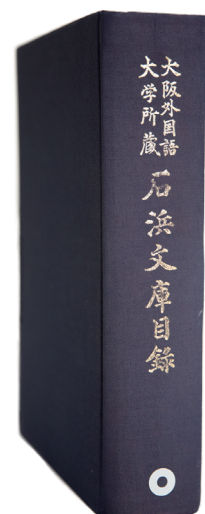


日本、中国からモンゴルほかアジア各地を網羅

図書館の貴重コレクション室で、

アジア古今のお宝発見！

豊中キャンパス総合図書館の貴重コレクション室には、大阪大学と大阪外国語大学（現在の外国語学部）が収集した人文学、社会科学ほか多岐にわたるジャンルの稀覯本・学術資料が数多く収められています。その中から今回は、古代から近現代にかけての東洋学資料の一大コレクションである石濱（いしはま）文庫をご紹介します。



◀『大阪外国語大学所蔵 石濱文庫目録』
受入れ後10年かけて編纂された。

圧倒的な量と幅広いジャンルを誇る石濱文庫

石濱文庫は、東洋言語学と東洋史の研究者である石濱純太郎博士（1888-1968）が収集した、多くの言語にわたる図書・雑誌のほか、

研究資料など5万点以上にも上る東洋学のコレクション。その特徴は、扱う言語や資料形態の広さ、時代の広さです。石濱博士は、東京帝国大学で中国文学を学んだのち、創設されたばかりの大阪外国語学校（大阪外国語大学の

前身）に入学してモンゴル語を学びました。未解読文字の研究をはじめ東洋学の広範なジャンルに取り組み、生涯をかけて大量の資料を収集しました。そのコレクションは、博士の没後、今後の研究に役立ててほしいとのご遺族の思いから大阪外国語大学に託され、現在は大阪大学総合図書館に収められています。

▼『元朝秘史』写本
モンゴル帝国初期の歴史。モンゴル語を漢字で音写している。

▶ 19～20世紀初期の
アジア地誌・旅行記
欧米学術書の収集も特徴の一つ。



未解読文字研究に関わる多彩な資料を収集

コレクションは、和書や漢籍（中国の古典籍）、東洋学を中心とした欧米の学術書、国内外の学術雑誌、論文の抜き刷り、モンゴル語の新聞や図書などのほか、拓本（たくほん）やモンゴル語の経典、写真資料、幅広い交友をしめす書簡、自身の研究ノートなど多岐にわたります。目を引くのは、10～13世紀に創られた契丹、西夏、女真文字など、当時未解読のアジアの文字（注1）に関する資料。博士は西夏文字の

解読に強い情熱をもち、「西夏文字を理解するには、それをとりまく諸言語や文字、歴史まで知る必要があると考え、資料を集めていったのでしょう」（文学研究科堤一昭教授）。その幅広さからは、飽くことなき学者の好奇心が窺えます。

（注1）西夏、女真文字は後に解読されました。契丹文字は現在解読が進められています。



▲『大方広仏華嚴經』
西夏文字で記された仏教経典。

これからの東洋学研究に役立てる

石濱博士は、大阪の懷徳堂の町人学者たちの学問にも興味をもち、研究を行っていました。「江戸時代に刊行された和書のなかで目立つのは、懷徳堂で学んだ学者に関する資料です。自らも彼らに続く町人学者と考えていたようです」（堤教授）。石濱文庫は懷徳堂文庫とともに、近世からの大阪の学問の足跡をたどる貴重な資料でもあります。

今後、資料のデータベース化、博士の

伝記資料などの整理を阪大内外の研究者と協力して進めるとともに、石濱文庫と博士が学んだ大阪外国語学校などを多くの人に知ってもらうため、本学の総合学術博物館での展覧会を計画しています。「西夏文字など今では使われなくなった文字だけでなく、古代中国の甲骨文字からの漢字の変遷を含めて、拓本を中心にアジア全体の文字の歴史を見わたせるようにしたいですね」（堤教授）。



◀ 山片蟠桃
（やまがたばんとう）
『夢の代』写本
懷徳堂で学び、大坂の豪商の番頭となった。



堤 一昭（つつみ かずあき）教授
文学研究科 文化動態論専攻 共生文明論講座

1960年生。京都大学大学院文学研究科博士後期課程（東洋史学専攻）学修退学。大阪外国語大学外国語学部講師、同助教授、同准教授、大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2013年6月より現職。専門は、13～14世紀の「モンゴル時代」の中国（いわゆる元朝）の歴史。

▲ 富永伸基（とみながなかもと）
『出定後語』初版本
石濱は、懷徳堂に学んだ彼の伝記を著した。



※貴重図書のご利用は、出納方式のため、事前の申請が必要です。詳しくはWebページ（<https://www.library.osaka-u.ac.jp/sougou.php>）をご覧ください。